



学科カリキュラム説明

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.

- 「農学部要覧」は、**卒業まで**大切に保管してください。
- このスライドに記載のページ番号（p.○）は、「農学部要覧」のページ番号を示しています。

農学部

- I. 教育目的
- II. 教育目標
- III. ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）
- IV. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

○掲載場所:

[大学HP トップページ](#) > [教育情報の公表](#) > [教育研究上の目的・3ポリシー](#) > [農学部](#)

■教育目的

多様な生命体や自然環境が持つ仕組みや働きを生物学、化学、生態学及び環境学をはじめとする様々な観点から理解することに重点をおいた教育を行うことで、国内外で直面している課題の解決に活用する能力を有し、農学が関連する産業分野あるいは行政などで専門職業人として活躍できる人材を養成する。加えて豊かな教養とコミュニケーション能力、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力、高い倫理観と創造力を通して、社会の多方面で活躍できる能力を身に付けた人材を養成する。

(農学部規程 第2条)

■教育目標


1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付ける。
2. 学科毎に複数の学問分野の基礎となる知識を修得し、自然現象を生物学、化学あるいは生態学及び環境学の観点から捉えることのできる能力を身に付ける。
3. 学科毎に学修した基礎知識を関連する産業分野あるいは行政などに有効に利用するための技術など農学の応用分野に関する高度な専門知識を身に付ける。
4. 実験・実習、演習、卒業研究などを通して、研究に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付ける。
5. 科学における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学における高い探求心を持ち、継続して学修する能力を身に付ける。

(農学部ディプロマポリシーより)

p.4

卒業認定・学位授与の方針

- 農学関連の産業分野や行政などで活躍できる専門家
- 様々な能力と高い倫理観・創造性を有した人材

- 
- ✓ **幅広い教養とコミュニケーション能力**
 - ✓ **農学・環境学の基礎知識**
 - ✓ **〃 〃 専門知識**
 - ✓ **研究技能と思考力、応用力**
 - ✓ **自ら学修し続ける能力**

などを身に付ける

緑地環境科学科

- I. 教育目的
- II. 教育目標
- III. ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）
- IV. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）
- V. カリキュラムマップ

○掲載場所:

[大学HPトップページ](#) > [教育情報の公表](#) > [教育研究上の目的・3ポリシー](#) > [農学部](#)



■ 教育目的

環境の要素となる大気、水、土、生物と人間活動との関わりを科学的に理解し、評価するための知識や技術と、緑地環境を望ましい状態に維持し、管理するための技術を修得し、都市及びその周辺の農地や森林を含めた都市圏において、持続可能な地域を実現するためのエコロジカルデザイン、人類の豊かな生活環境と生産環境の維持、増進、さらには、自然資源の保全や管理に関わる広範な領域で活躍できる専門職業人となり得る人材を養成する。

(農学部規程 第4条)

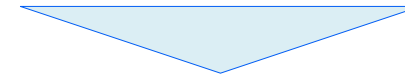
■ 教育目標

1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付ける。
2. 緑地学や農業工学、生態学や環境学などから構成される緑地環境科学の基礎となる知識を修得し、緑地環境に関わる広範な課題を多角的に捉えることのできる能力を身に付ける。
3. 緑地環境を適切な指標を用いて計測、診断、評価し、緑地環境の保全及び管理を実践するための技術など緑地環境科学分野に関する高度な専門知識を身に付ける。
4. 実験・実習・演習、卒業研究などを通して、緑地環境科学に関する研究及び専門技術に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付ける。
5. 科学及び専門技術における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学及び技術における高い探究心を持ち、継続して学修する能力を身に付ける。

(緑地環境科学科ディプロマポリシーより)

p.40

➤ 環境と人間活動の関わりを科学的に理解し、実社会で活躍できる人材



✓ 幅広い教養とコミュニケーション能力

✓ 緑地環境科学の基礎知識

✓ // 専門知識

✓ 研究技能と思考力、応用力

✓ 自ら学修し続ける能力

などを身に付ける

カリキュラムポリシー (p.40-41)

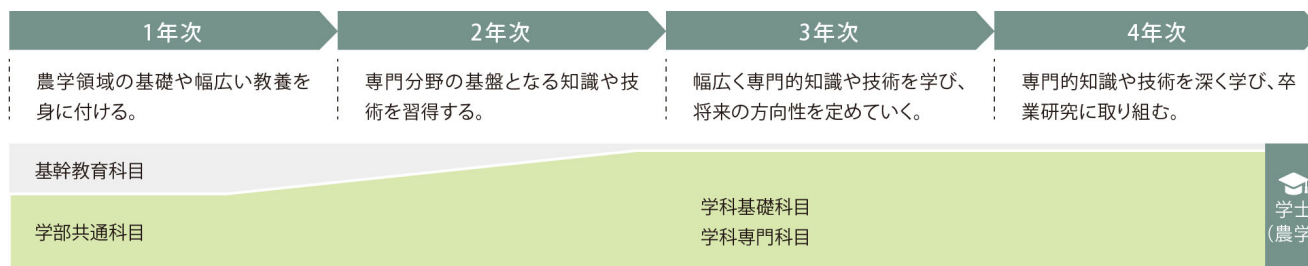
緑地環境科学科の教育目標に掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、**基幹教育科目 (初年次教育科目)** を配置する。
2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、**基幹教育科目 (総合教養科目、外国語科目 (英語、及び初修外国語科目)、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目)** を配置する。
3. 緑地環境科学科での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるために、**基幹教育科目 (基礎教育科目)** を配置する。
4. 農学における緑地環境科学科の位置付けや他学科における学問との関連性を理解させるために、1年次に**専門科目 (学部共通科目)** として「農学概論」を配置する。
5. 緑地環境科学の専門領域に関わる基礎的知識を修得させるために、**専門科目 (学科基礎科目)** を配置する。
6. 緑地環境科学の専門領域に関わる原理やシステムの理解力とその応用力を身に付けさせるために、**専門科目 (学科専門科目)** を体系的に配置する。
7. 緑地環境科学科における専門的スキル、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを育成するために、**実験・実習・演習科目及び学外実習 (インターンシップ) 科目として専門科目 (学科基礎科目、学科専門科目)** を体系的に配置する。
8. 研究やプロジェクトを自主的、計画的に遂行するとともに成果をとりまとめる能力を養成するために、少人数の演習科目を配置し、**卒業研究**を必修とする。

成績評価の基準と方法については、農学部のカリキュラム・ポリシーで定める。

緑地環境科学科で学ぶ学生が身に付けている学修成果を適切に把握するため、「大阪公立大学における教育の内部質保証に関する方針」に従って、アセスメントポリシーとアセスメントリストを定め、複数の評価指標・方法を用いて定期的に、本学科の教育カリキュラムの学修成果の評価を行う。

4年間の流れ



各科目の提供目的を記載

➤ 基幹教育科目

- ✓ 初年次教育科目
- ✓ 総合教養科目
- ✓ 外国語科目
- ✓ 基礎教育科目

➤ 専門科目

- ✓ 学部共通科目
- ✓ 学科基礎科目
- ✓ 学科専門科目
- ✓ 実習・演習
- ✓ 卒業研究

緑地環境科学科のカリキュラム

カリキュラム	1年次	2年次	3年次	4年次
	基幹教育・緑地環境入門科目	緑地環境に関する基礎的な科目	それぞれの研究領域に関するより専門的な科目	
基幹教育科目	初年次ゼミナール 情報リテラシー University English 1A・1B University English 2A・2B 初修外国語(入門1・入門2) 健康・スポーツ科学概論・演習 数学1・2 基礎力学C 統計学基礎A1・2 生物学1・2 生物学実験 基礎無機・物理化学 他	University English 3A・3B		
専門科目(講義)	農学概論 自然環境保全論(環境倫理含む)	植物形態分類学 計測工学 動物形態分類学 緑地学原論 植物生態学 環境マネジメント論 動物生態学 環境気候学 気象学 環境生態学 植物環境生理学 構造力学 地盤工学 水理学 緑地水文学 測量学	生態気象学 生物生産工学 植物環境制御学 都市緑地計画学 循環型社会システム論 ランドスケープデザイン 環境材料論 都市環境デザイン 環境施設工学 緑地保全学 土壌物理学 環境緑化学 水環境管理学 エコロジカル 生産環境管理学 プランニング 生産環境システム学 環境動物昆虫学 他	社会調査論 土壌・植物栄養学 植物病理学
専門科目(実習等)	緑地環境数理演習	測量学実習 緑地環境科学実習演習基礎A・B	緑地環境科学英語 緑地環境科学実習演習応用A・B 緑地環境科学インターンシップ	専攻セミナー1 専攻セミナー2 緑地環境科学卒業研究 里地里山管理学実習

授業科目の種類（科目区分）（p.8）

○科目区分名および開設部局（特例科目を除く）

科目区分		開設部局		
基幹教育科目 1、2回生	総合教養科目	国際基幹教育機構		
	ゼミナール科目		プロジェクト	
			高年次ゼミナール	
			初年次ゼミナール	
	情報科目		国際基幹教育機構	
	外国語科目			英語
				初修外国語
	健康・スポーツ科学科目			国際基幹教育機構
基礎教育科目				
専門科目	2～4回生	各学部・学域		
資格科目	教職科目	国際基幹教育機構		
副専攻科目		各学部・学域 国際基幹教育機構		

専門科目の詳細は、p.45、46に記載

授業科目の単位、単位制 (p.8~9)

授業形態	授業時間	単位数
講義・演習	毎週 1 時間 15 週	1 単位
実験・実習	毎週 2 時間 15 週	1 単位
卒業研究	毎週 4 時間 15 週	1 単位

(p.9)

- 授業形態によって、単位数が異なる。
- 講義・演習は、週1コマで2単位が標準
- 実験・実習は、週2コマで2単位が標準
- 単位は、予習・復習の時間を行うことを前提に設定。



- 試験、レポートなどで評価（詳細は、シラバス参照）。
- 60点（C評価）以上で単位修得
- 評価によってGP（Grade Point：1~4）が得られます。
- GPA（Grade Point Average）、通算GPAを算出 (p.15)


- 科目には、卒業要件に算入される“**必修科目**”と“**選択科目**”のほかに、“**自由科目**”という区分がある。
- 自由科目は、履修できるが卒業要件には参入されない科目。

- 1回生 : **森之宮**キャンパス
- 2回生以降 : **中百舌鳥**キャンパス

※ 基幹教育科目を再履修する場合、中百舌鳥キャンパスから森之宮キャンパスへの移動が生じることになりますので、ご留意ください。

- 授業を受講し、単位を取得するためには履修登録が必要
- 履修登録は、「履修登録の手引」のp.3～13を参照
- 「1年次専門科目ガイド」に履修モデルが記載
- 「1年次専門科目ガイド」にある時間割表を活用すると良い
- 各科目の開講曜日や時限は時間割（学生Naviで公開）を参照

※ 履修登録修正期間後の登録の取り消しは、
例外（履修登録の手引p.14）を除き、原則不可。

- 
- （ア）授業内容が『シラバス』で公開されている内容と本質的に異なっている
 - （イ）授業についていけるだけの知識の不足が発覚

緑地環境科学科 履修登録モデル

「1年次専門科目ガイド」(p.2)



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

一般用

教職課程用

2026年度 農学部 緑地環境科学科 履修登録モデル

2026年度 農学部 緑地環境科学科 履修登録モデル

前期【森之宮キャンパス】 履修上限25単位

時限	月	火	水	木	金
1時限目 9:00 ~ 10:30	University English1A	統計学基礎1	University English1B	初修外国語(入門1)	教養科目
2時限目 10:45 ~ 12:15	基礎無機・物理化学 教養科目	初年次ゼミ 教養科目	基礎力学C	生物学1	農学概論
3時限目 13:15 ~ 14:45	情報リテラシー 教養科目	数学1	教養科目	初年次ゼミ 教養科目	初年次ゼミ 教養科目
4時限目 15:00 ~ 16:30	健康・スポーツ 科学概論 教養科目	生物学実験A	教養科目	基礎物 理学実 験1C	初年次ゼミ 教養科目
5時限目 16:45 ~ 18:15	初年次ゼミナ ール 教養科目		地球学実験C	初年次ゼミ 教養科目	初年次ゼミ 教養科目
時間割外 (集中講義等)	データエンジ アリング・AI基 礎				

前期【森之宮キャンパス】 履修上限25単位

時限	月	火	水	木	金
1時限目 9:00 ~ 10:30	University English1A	統計学基礎1	University English1B	初修外国語(入門1)	教育と社会 (CAP対象外)
2時限目 10:45 ~ 12:15	基礎無機・物理化学	初年次ゼミ	基礎力学C	生物学1	農学概論
3時限目 13:15 ~ 14:45		数学1		初年次ゼミ	初年次ゼミ
4時限目 15:00 ~ 16:30	健康・スポーツ 科学概論	生物学実験A		基礎物理学実験 1C	初年次ゼミ
5時限目 16:45 ~ 18:15	初年次ゼミ		地球学実験C		初年次ゼミ
時間割外 (集中講義等)	データエンジ アリング・AI基 礎	理科教育法1A (CAP対象外)	教職概論 (CAP対象外)		

後期【森之宮キャンパス】 履修上限25単位

時限	月	火	水	木	金
1時限目 9:00 ~ 10:30	University English2A	地球学入門 教養科目	University English2B	初修外国語(入門2)	教養科目
2時限目 10:45 ~ 12:15	基礎有機化学 教養科目	数学2 教養科目	教養科目	生物学2 教養科目	自然環境保全論 (環境倫理含む)
3時限目 13:15 ~ 14:45	統計学基礎2	健康・スポーツ 科学演習 教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
4時限目 15:00 ~ 16:30	基礎電磁気学C 教養科目	基礎化 学実験	教養科目	教養科目	緑地環境数理演 習
5時限目 16:45 ~ 18:15	教養科目		教養科目	教養科目	
時間割外 (集中講義等)					

後期【森之宮キャンパス】 履修上限25単位

時限	月	火	水	木	金
1時限目 9:00 ~ 10:30	University English2A	地球学入門	University English2B	初修外国語(入門2)	教養科目 (ジェンダーと現代社会)
2時限目 10:45 ~ 12:15	基礎有機化学			生物学2	自然環境保全論 (環境倫理含む)
3時限目 13:15 ~ 14:45		健康・スポーツ 科学演習			発達・学習論 (CAP対象外)
4時限目 15:00 ~ 16:30	基礎電磁気学C	基礎化学実験	教養科目 (日本国憲法)	教育の思想と歴史 (CAP対象外)	緑地環境数理演 習
5時限目 16:45 ~ 18:15	教養科目				
時間割外 (集中講義等)					

シラバス (UNIPAから照会)

シラバス照会

印刷

【科目情報】

授業コード	1AKC028001	科目ナンバリング	AKCAGR32015-J1
授業科目名	水理学		
担当教員氏名	中桐 貴生		
開講年度・学期	2026年度前期	曜日・時限	月曜3限
授業形態	講義		
配当年次	2年	単位数	2.0単位

【シラバス情報】

授業概要	<p>水をはじめとする流体の基本的性質・諸元について解説促した後、静止状態にある流体（水）の力学的特質、動き（流れ）を伴う流体の力学的特質の順にそれらの基本原理を解説します。また、必要に応じて各現象を表現する工学的な支配方程式などについても詳述します。</p> <p>水理学的な現象は実際に目で見てみると理解が深まりやすいので、適宜、簡単な模型を使つての実演的説明も行います。</p> <p>この講義では、内容の理解にとどまらず、実際の数値計算も正しく行えるようになることを目標にしていますので、適宜、授業支援システムの小テスト機能を利用して、数値計算問題を解くトレーニングも行います。</p>
到達目標	<p>緑地や地球の環境形成において、重要な要素の1つとなる「水」の基本的な性質とその運動（流れ）の基本原理を理解し、さらに、利水や治水、水辺環境整備、生態系保全などに関する工学的計画や、そのための施設設計などを行う専門技術分野において不可欠である水理学についての基礎知識や応用力を習得することを目的とする。また、以下の知識を理解・習得し、それらに関する数値演算を行えるようになることを具体的な達成目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 単位や次元など、力学に関する基礎的な用語や知識について正しく理解し、説明できるようになること。2. 流体としての水の基本的な性質について理解し、理論的な説明ができるようになること。3. 静水圧に関する基本的な知識を理解し、簡単な数値計算問題を解けるようになること。4. ベルヌーイの定理を理解し、説明できるようになること。5. 水の運動について、ベルヌーイの定理を使って説明でき、さらに数値計算問題を解けるようになること。

成績評価

- 各授業担当教員が、試験やレポートなどで評価
- 評価方法の詳細は、各授業のシラバスに示されている
- 原則として、授業回数の3分の2以上の出席が必要
- 60点（C評価）以上で単位修得

GPA制度

- 科目ごとに、成績により1~4のGP（Grade Point）が付与
- 学期ごとに、履修科目全体でのGPの平均値GPA（Grade Point Average）が算出される
- 成績証明書には、発行時点でのGPAが記載される

年次	履修登録できる単位数		
	前期	後期	年間
全年次	25 単位以下	25 単位以下	50 単位未満

p.16

- 学期ごとに履修登録の**上限**が設けられている（CAP制）。
- **自由科目**（卒業の所要単位に含まれない）と「CAP対象外」と明記されている科目はCAP制の対象外。
- 対象外の科目は、該当する科目はp.46を参照。
- 成績優秀者（GPA：3.00以上）は、直後の学期に履修登録できる単位が**6単位**引き上げられる。
- GPAを3以上修得するには、平均80点以上の取得が必要。

進級要件 (3年次終了時までには修得すべき単位)

卒業に必要な単位 (要卒単位) として算入できる単位のうち、
「緑地環境科学英語」および必修科目の実験・実習・演習 (計 16 単位) を含む
114 単位以上。

- 3回生から4回生への進級には、所定の単位修得が必要

研究グループ分属について

- **3回生前期**終了時点で、研究グループの**配属を決定**
- 各研究グループへの分属人数に制約あり
- 希望に沿った配属となるよう、できる限り調整
- 調整が困難な場合、成績評価 (**GPA**) に基づいて決定

表V-2 緑地環境科学科における卒業に必要な単位 (要卒単位)

科目区分		必要単位数	
基幹教育科目	総合教養科目	6単位	
	ゼミナール科目		プロジェクト, 高年次ゼミナール
		初年次ゼミナール	1単位
	情報科目	2単位	
	外国語科目	英語	12単位
		初修外国語	2単位
	健康・スポーツ科学科目	2単位	
	〈小計〉		29単位
	基礎教育科目	必修	10単位
		選択	6単位
専門科目	必修	学部共通科目	2単位
		学科基礎科目	27単位
		学科専門科目	24単位
	選択	学科専門科目	32単位
	〈小計〉		85単位
合計 ※注2		130単位	

- ✓ 科目区分ごとに必要な単位を修得
- ✓ 他の科目区分への振替はできない

合計**25**単位。
これに加え、この枠内の科目からさらに**4単位**の修得が必要

卒業に必要な単位を修得するために

1. 適切な科目を履修登録（p.13～14）
2. 授業に出席（成績評価は、授業回数の**3分の2以上**が前提）
3. 定期試験を受験（レポート提出のみなどの場合もあり）
4. 各授業科目の**シラバス**に記載の「**成績評価方法**」にしたがって評価された成績で**60点（C評価）**以上取得

- ◆ **不正行為**を行った場合は、その学期に履修した科目の成績は**全て無効**となる（p.16）
- ◆ 小テスト、レポートなど成績評価に関わる行為で不正があった場合も同様の措置となる（p.17）
- ◆ **定期試験受験心得、レポート・小テスト等の心得**をよく読んで試験などに臨むこと

これから、農学部教務（教育推進課）が作成した、

- ✓ 「履修登録の仕方」
- ✓ 「学生証・通学証明書」

についての説明動画を視聴してもらいます。

非常に重要な内容ばかりですが、情報量が多いうえに、説明も速いので、一回の視聴だけで、すべてを理解するのは難しいかもしれません。

当学科水環境学研究グループHPの「**2026**年度入学生」タブに同じ動画のリンクを貼り付けてありますので、適宜利用してください。